



ゆき 雪はどうして降るの

ちじょうふきん おんど どスィー い か
地上付近の温度が0 以下のとき

くも ちい みず こおり
雲は、小さな水や氷のつぶからできています。

じょうくう き おん ひく くも なか ちい みず こおり
上空の気温が低いと、雲の中の小さい水のつぶは、氷のつぶになります。そして、その
こおり
氷のつぶのまわりに、くうきちゆう すいぶん
空気中の水分がくっついて、だんだん大きな氷の結晶になってい
きます。これがゆきのつぶです。

ゆき そら ちひよう お くうきちゆう すいぶん おお
雪のつぶは、空から地表に落ちてくるときにも、空気中の水分をくっつけて、さらに大き
くなっていきます。

このように、おお 大きくなった こおり 氷のつぶのままで、ちひよう 氷 地表に降ったものがゆきです。ちひようふきん 地表付近の
おんど 温度が0 い か 以下のときに、ゆき 雪が降ってきます。2 い か 以下でもとけきれずに、ゆき 雪になることが
あります。

あめ ゆき おな
雨も雪も、もとは同じ

ゆき 氷
雪が降ってくるとちゆうの、ちひようふきん 地表付近の気温がたか 高いときには、みぞれ(あめ ゆき ま 雨と雪が混じった
もの)やあめ 雨になります。

日本のまわりで降るあめ 雨は、ほとんどが、じょうくう こおり
上空で氷のつぶになって、大きくなったもので
す。それが、氷 降ってくるとちゆうでとけて、あめ 雨になります。

じょうくう 上空では、あめ 雨になるものとゆき 雪になるものは、おな 同じです。降ってくるとちゆうの おんど ひく
こおり 氷のつぶがとけないで降ってきたときが、ゆき 雪になります。(監修・村山 貢司)

